

寄生虫

スーパースペシャリストとは、どのような存在であるべきか？

◎松村 隆弘¹⁾
学校法人北陸大学¹⁾

【AI が検査補助する時代は遠い】

寄生虫検査は AI や自動化が進んでいるのだろうか。世界に目を向けると AI 技術を用いた画像寄生虫検査の研究は進められており、実装に向け進展している。しかし、日本国内では寄生虫感染者数や検査依頼数が減少または低いレベルでの感染者数が維持されていくことが今後想定される。現状を踏まえると、コストパフォーマンスが低い寄生虫検査には AI や自動化の導入は難しいかもしれない。

一方で、AI が診断を補助するようになれば、鑑別疾患として寄生虫感染症も可視化され、検査依頼も増える可能性がある。しかし、寄生虫検査ができる技師は減少傾向にあり、現状が変わらないままでは、赤痢アメーバ感染や条虫感染など治療法が確立されている感染症にも関わらず、患者がたらい回しになるような危機的状況を迎えるかもしれない。そのためにも一定の技術、知識は臨床検査技師にとって今後也不可欠である。

【寄生虫検査は医師も臨床検査技師を頼る分野】

興味深い点として、寄生虫検査ができる臨床検査技師が減少傾向にあるにも関わらず、寄生虫に関して、臨床検査技師が医師に頼られる存在になりつつあることである。それは医師も寄生虫に関する経験や知識がほとんどなく、寄生虫を学んでいる臨床検査技師に頼らざるを得ない状況だからである。そのため、他の分野と異なり、寄生虫検査はすでに医師に対しアドバイスや提案をしやすい環境が整っている。実際、一定の技術と知識があれば簡単なアドバイスや提案をすることは可能であり、その技術や知識は研修会に参加することで補うことができる。

【寄生虫検査を教える人材が不足】

今、問題となっていることは、技術や知識を伝承する専門家が激減し、気軽に相談できる環境がないことである。そのため、今回のキーワードである寄生虫検査の「スーパースペシャリスト」とは、寄生虫検査の専門家を指す意味になると考えている。そして、地域ごとに研修会の開催や、寄生虫検査に関する相談員として医師はもちろん臨床検査技師にもアドバイスや提案できる専門家を育成していくことが急務である。

【認定技師はスーパースペシャリストになり得るか】

昨今、寄生虫検査にも認定資格が登場した。今後、日本の寄生虫検査を維持していくために必要な資格となると期待されている。そして、認定技師を「スーパースペシャリスト」へと育成させることが重要となる。しかし、認定技師がそこまで考えているかどうかは不明である。そこを明確化するために、認定機構は熱量を持って説得または訴える必要がある。そして認定技師が各々、技術や知識を増やし易い場を提供していくことも大切である。当然のように認定技師同士がディスカッションする場も設け、密なネットワークを構築できることが理想である。最終的に研修会の講師として認定技師を派遣できるようになれば、寄生虫検査の「スーパースペシャリスト」が誕生したと言えるだろう。

今年、数名の認定寄生虫検査技師が誕生し、彼らは一期生となった。この一期生をどのように束ね、どのような仕組みを作っていくかが、「スーパースペシャリスト」誕生のための最重要課題ではなかろうか。

連絡先：076-229-1161（内線 5972）